

橋下徹・大阪市長の慰安婦問題に関する日本YWCAの質問に対する回答

日本共産党

1、公的立場とマスメディアの悪用ではないですか

ご指摘については、全面的に同意します。橋下徹・大阪市長の日本軍「慰安婦」問題にかかわる発言は、同氏の人権感覚と女性蔑視が救いがたいほど低レベルであることを示しました。本来であれば、発言を全面的に撤回し謝罪したうえ、一切の公職から退くべきであるにもかかわらず、「メディアの誤報」とか「国民の読解力不足」と責任を転嫁したうえ、いまだに発言を正当化しています。

こういう政治家をいまだに党のトップにすえ、発言内容についても党内で不問にふしたままの政党も、地方政治や国政を語る資格はありません。

2、歴史認識を欠いており、国際的信用の失墜に対し無責任ではないですか。

前述したように、橋下氏の発言は歴史認識の問題でも人権感覚の問題でも、とうてい世界に受け入れられるものではありません。しかし、橋下氏本人も、橋下氏が代表を務める日本維新の会も、発言の合理化と正当化に腐心するばかりです。これがまた、世界から批判をうけ響きを買っている要因ともなっています。

同時に、日本政府の対応も、国際的な批判を拡大する一因となっていることも指摘しなければなりません。ご指摘のように、国連の拷問禁止委員会は日本政府にたいし、公人による「慰安婦」問題の発言が、「慰安婦」への新たな心的外傷を与えていることを指摘し、「即時かつ効果的な立法的・行政的措置をとる」よう勧告しました。しかし、日本政府は「勧告に従うことを義務付けているものではない」として、国連の勧告を事実上、無視する挙に出ました。

すでに橋下氏の暴言が公然化した際、米国の政府や議会関係者から、「日本政府の問題」だとする指摘がありました。植民地支配と侵略戦争という歴史問題に真摯に向き合わない日本政府の態度が、橋下氏のような暴言の温床になっていることを直視したいと考えます。

3、モラル・道義的責任感の欠如ではないですか。

「慰安婦」問題と「米軍への風俗業活用」発言をめぐる橋下氏の一連の発言は、端的に言って「弱い者は見下し、強い者には従う」という、人間としてもっとも恥ずかしい姿勢です。批判されて、言を左右にするだけでなく、事実上、撤回に等しいような発言をしておきながら、それをまともに認めず、時と場所、相手によって発言を使い分ける――。このような人に、モラルや道義的責任をうんぬんしてもはじまりません。こんな政治家と政党は、政治を語る資格も立場もないことを、実際の政治の場――選挙で知らせる以外にはありません。そうしてこそ、日本のモラルと道義的責任を世界に明らかにすることになると確信します。

□